コミュニティ交通部会について

資料7

1. 目的

■ 公共交通空白地域等における通院や買い物等の日常生活に必要な移動を支えるため、**AIデマンドタクシー等の運行により移動手段を確保するとともに、地域内移動の利便性向上を図る**もの。

■ 将来に渡って地域内公共交通ネットワークを維持していくため、**持続可能なコミュニティ交通の実現に向けたサービス水準等の検討を行う**。

2. 現状・課題

■ **現状・課題**

- **超高齢社会の本格化、路線バスの廃止・減便の深刻化**により、コミュニティ交通の重要性がますます高まっている。その一方で、現在のコミュニティ交通の主たる担い手である**タクシー事業者も運転手不足が深刻化**している。
- 本部会では、持続可能なコミュニティ交通を実現するため、**取り巻く環境や財政負担を踏まえた適切な導入基準・サービス水準を整理**するとともに、併せてライドシェアなどの新たなモードの検討を進める。

■ **昨年度までの取組**

＜**公共交通空白地等でのAIデマンドタクシーの本格運行**＞

- 令和6年7月より西南地域（天明・飽田・小島・中島）及び植木地域（旧植木町全域）においてAIデマンドタクシーの本格運行を開始。

【利用状況】西南地域:30.6件/日　植木地域：32.9件/日

＜**導入基準・サービス水準の検討**＞

- コミュニティ交通の目的・役割、他都市の運営状況との比較等を踏まえ整理した今後の方向性をコミュニティ交通部会でご議論いただき、導入基準・サービス水準の素案（たたき台）を作成

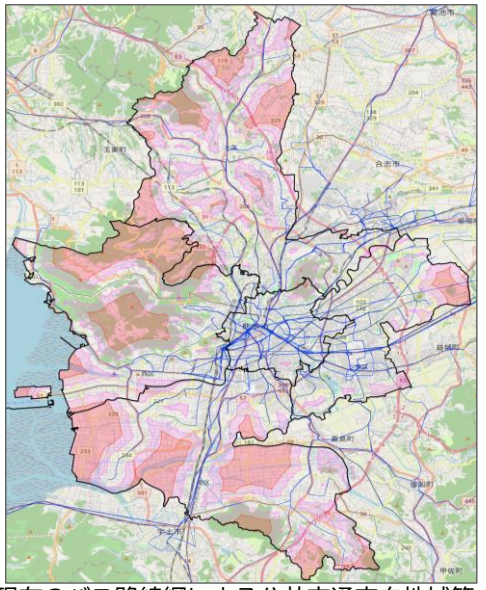
> ➢ 地域ごとに道路事情や接続するバス停、生活サービスが異なるため、**各地域の事情を加味できるようにしてほしい**。
>
> ➢ 他の公共交通機関との共存の観点で、**便利すぎる、安すぎるものではいけない**のではないか。
>
> ➢ **機能が重複したり、ほぼ利用されていない路線は、見直しが必要**ではないか。
>
> ➢ 公共ライドシェアの導入には、**安心・安全の確保**とともに、**安定的なサービスを提供できる体制づくりが重要**。

▲R7(2025).2.5開催　コミュニティ交通部会での主なご意見

3. 今年度以降の取組

■ **将来のバス路線網による公共交通空白地域等の拡大可能性も踏まえた、運行コスト等の比較検証を行うシミュレーション**を実施したうえで、**コミュニティ交通の導入基準とサービス水準を策定**する。

- 将来のバス網を踏まえた**公共交通空白地域等やコミュニティ交通の対応状況**等、運行、人流、地形・道路情報等の各種**データを用いた移動実態の把握**
- 運行シミュレーションによる現状の評価、課題整理のうえ、**素案作成時の検討事項等を整理**
- 導入基準、サービス水準（案）による**地域内公共交通ネットワークの将来像の検討**



▲現在のバス路線網による公共交通空白地域等

項目		導入基準（どういった地域、市民に必要なものか）
位置づけ（総論）		公共交通空白地域等における移動手段の確保（現行と同様）
導入モード		AIデマンドタクシーの導入を基本とするが、導入が難しい地域には乗合タクシーを導入
	今後検討	導入が難しい地域（山間部、市域外等）、重複地域の導入モードの統廃合
対象地域		公共交通空白地域または公共交通不便地域を含むエリア
	今後検討	エリア設定の単位（校区、町内単位等）
運行区間	AIデマンド	主に対象地域と最寄りの地域拠点（医療、商業、公共交通等の都市機能が立地）間を接続（区域型）
	乗合タクシー	主に対象地域から最寄りのバス停等間を接続し、経路上の病院等を経由（路線型）
	今後検討	運行頻度が高いバス停やスーパー等の生活拠点までの接続

項目		サービス水準（どの程度の運行を行うものか）	
		AIデマンドタクシー	乗合タクシー
運行内容 日時、頻度、 車両・運行台数、運賃	今後検討	将来の路線バス網（運行本数・容量、時間等のサービス水準）を踏まえたコミュニティ交通のコスト等の比較検証を行うシミュレーション	
停留所	住宅地	地域からの要望を踏まえ、対象地域内に概ね300m(徒歩5分圏内)以上の間隔を空けて設置	地域からの要望を踏まえ、運行ダイヤや運行効率等を加味して対象地域内に設置
	目的地	地域からの要望を踏まえ、概ね対象地域・地域拠点内の医療・商業施設等に設置	地域からの要望を踏まえ、運行区間で定める最寄りのバス停等に設置
運行事業者		運行地域のタクシー事業者を基本とするが、タクシー事業者による運行が難しい場合は地域住民による運行（公共ライドシェア）も検討	

▲コミュニティ交通の導入基準・サービス水準（素案）